

竜王北中学校 学校関係者評価書

令和6年1月30日（火）

（竜王北中学校）学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和6年1月29日（月）16時45分～17時50分

会場：竜王北中学校校長室

参加者：（学校関係者評価委員）

石合廣光 田中陽子 佐藤一郎 岡英幸 長沼勇二
（学校側）

依田宏記 内田勝久

I 学校側から提案された内容

- ・令和5年度自己評価書
- ・令和5年度自己評価シート集計結果

II 協議された主な内容

- ・令和5年度自己評価書に関しての意見及び感想。
- ・本校の教育活動についての質疑とそれに対する意見および今後の改善策。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・肯定的な回答（A「とてもそう思う」B「そう思う」の合計）が、36項目中30項目で85%以上となっていることから、学校運営は概ね良好な状態にあると捉えている。
- ・肯定的な回答が低い（85%未満）項目は、「学校は多忙化解消に努めている」「ICTを効果的に活用した授業」「校内研究に主体的に関わっている」「宿題や家庭学習に対する指導」「地域人材や施設を活用した教育活動」「PTA活動への積極的参加」の6項目であった。

II 特徴

I・II 学校目標に関して、学校経営・学校運営に関して

- ・多忙化解消及び働き方改革について
 - ・多忙化解消も大切であるが、本来やらなければならないことや、生かしていかなければならないものもなくしてはいけない。例えば意見の中で学級通信のことが書かれているが、先生方それぞれ色々な考えがあり、ポリシーや生徒に伝える手段として教育効果を感じているものもあるので、一概にやめたほうが良いとは言えない。
 - ・生徒は先生方の態度に敏感である。先生方が多忙で疲れていたり、いらいらしてしまうと必ず伝わってしまう。学校として週1回は定時に帰れるよう取り組んだり、早く帰れる日を設定することにより、先生方も自分の仕事の中で早く帰る目標ができて効率化ができるのではないかな。また、管理職が早く帰ることによって先生方の意識も変わっていくと思う。少しずつで良いので、学校として効果的だと思うことを行動に移していくことが大切である。先生方が余裕を持って生活し、生徒と接することは生徒に対しても大切なことだと思う。
 - ・会議等も効率よくやっていく工夫も大切である。
 - ・電話対応についても、安心メールでの遅刻や欠席の連絡ができることを保護者に浸透するまで何度も伝えていくことや、留守番電話機能で対応していけるようになると良いと思われる。

Ⅲ 学習指導について

・ICTの活用について

- ・クロームブックの持ち帰りについて、本校の状況を教えてほしいとの意見が出された。本校では自宅でのリモート授業は行っており、また、教科等で必要なときには持ち帰りをすることもあるが、基本的に持ち帰ってはいない。また、持ち帰りが毎日のようにできるようになったとき、生徒の鞆の重さも気になる。学校に置いていって良いものなどもう一度考えていってほしい。
- ・「ICTを活用効果的に活用した授業」については、昨年度の68.2%から本年度81.0%に上昇しており、教員の意識が変わってきたことが見受けられた。今後は、小学校とも連携しながら生徒のICT活用の利用状況を確認していく必要がある。

Ⅳ 生徒指導について

・不登校について

- ・不登校生徒について学校の取組やつながりはどうなっているのかとの質問が出された。欠席が続いてしまっている生徒には、様々な学校からの働きかけをなかなか受け入れられないケースや、連絡がつかないケースもある。ICTを使いリモートで授業を受ける生徒も数名いる。学級づくりの中で過ごしやすい場所をつくる取組はしている。また、家庭環境が改善されないと登校への意欲とならないのでは、という意見も出された。また、「相談できる友達はいいますか」の質問では3名、「困ったことがあったら相談できる先生はいいますか」の質問では5名の生徒が「いない」と答えている、しっかり目を配ってほしい。また、「あまりいない」と答えた生徒に対しても一定数存在しているので、その生徒たちも大切にし、危機感を持ち対応していただきたいという意見が出された。

今年度の高校入試の希望調査を見ると通信制高校希望者が400名近くいることを知り驚いている。また、最初から登校することをあきらめてしまっているのか定時制の希望者は前年度より減ってきている。不登校傾向の生徒の進路について、将来のことを考え、自分にできることを狭めないで親や先生方とよく話し合ってほしいと感じた。

先日、県PTA主宰の「もし、学校に行きたくないと言われたら」という講演会に参加したが、会場に入りきれないほどの保護者が集まり、不登校や引きこもりなどへの関心の高さに驚かされた。そこでの講師の先生がおっしゃっていた「でも、答えはない」という言葉に、本人のみならず保護者や先生方の苦労や悩みが理解できた気がする。今も十分取り組んでいると思うが、学校だけでなく様々な外部機関等が今はあるので、その子にあった形での対応が少しでも見つかれば、社会に出られるようにしてほしいと思う。

Ⅴ 地域との連携について

P T Aバザー等行事については、コロナ禍が開けた今、全てを元に戻すのではなく、必要な行事の精選と内容の検討が必要、との意見が出された。

竜王北中学校は、身近な地域として「サンテクノカレッジ」や「ハル研究所」があるのでICT活用や技術の授業などで連携したらどうか。講演会でも良いし、学生にICT授業についてサポートをお願いするなど探っていけばまだまだできることがあると思う。また、保護者の力を借りてもよいと思うので、声かけ等をしていくのも効果的であると思う。

・あいさつについて

いつも中学生がしっかりあいさつしてくれて嬉しく思っている。これが北中の良い伝統としてこれからも続いてほしい。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・多忙化解消も大切であるが、本来やらなければならないことや、生かしていかなければならないものをしっかりと見極め、精選できることや改善できることを、事あるごとに話し合いながら、少しずつでも良いので、学校として効果的だと思うことを行動に移していくことが大切である。また、部活動の休日地域移行についても、同様に、話し合いをもち、教育委員会と連携しながら、徐々に進めていく方向性が示された。
- ・クロームブックの持ち帰りについては、他校や他の地域での活用事例や情報を収集するとともに、小学校での活用方法を学びながら、研鑽を積んでいきたい。
- ・不登校の生徒の割合が多い傾向があることについて、生徒理解会議等においてスクールカウンセラーも交えて情報交換及び対応を話し合っているが、減少には至っていない。今後も、一人一人との関係を切ることなく、寄り添っていこうと考える。
- ・P T A バザー等行事については、コロナ禍が開けた今、全てを元に戻すのではなく、必要な行事の精選と内容の検討が必要、との意見が出された。
- ・身近な地域として「サンテクノカレッジ」や「ハル研究所」があるので I C T 活用や技術の授業などで連携し、講演会や学生に I C T 授業についてサポートをお願いするなど探っていけばまだまだできることがある。また、保護者の力を借りてもよいと思うので、声かけ等をしていく。

※特記事項

- ・特になし

記載責任者（竜王北中学校 学校関係者評価委員長） 氏名：石合 廣光 印